



…今年度第1回授業… 2年生の学習の様子を紹介します

教材名：『自分の弱さと戦え』

-生命, 自然, 崇高なものとの関わりに関すること(よりよく生きる喜び)-

車椅子テニスの選手 くにえだしんご 国枝慎吾さんの生き方から



Photo by スポニチ

車椅子選手の国枝慎吾さん。

9歳のとき、脊髄に腫瘍が見つかり、車椅子の生活になりました。11歳で車椅子テニスを始めます。

- 2004年…アテネ大会ダブルス金メダル
- 2008年…北京大会シングルス金メダル
- 2012年…ロンドン大会シングルス金メダル
- 全仏オープン優勝4回
- 全米オープン優勝5回
- 2016年…リオデジャネイロ大会ダブルス銅メダル

彼は、最初から天才的な強さを誇っていたわけでは
ありません。“メンタルな弱さ”が課題だったのです。

1. 自分が世界一になれると思うか？

2004年のアテネ大会後、世界ランクは10位前後にとどまり続け、気持ちが空回りする日々が続いていました。そんな時に会ったのが、メンタルトレーナーのアン・クインさんです。クインさんは「自分が世界一になれると思うか？」と問いかけました。「なりたい。」と答えた国枝選手に、クインさんは告げたそうです。

「これからは、なりたくないじゃなくて、世界一なんだと言い切る練習をしなさい。」
言われるまま、大勢の人の注目を浴びながら、「俺は最強だ！」と叫ぶ国枝選手。恥ずかしさの中で、何かが吹っ切れた感触があったそうです。

— 恥ずかしいのは、誰よりも自分自身が、自分を信じていないからじゃないのか—
以降、バラバラだった心と体が一つになり「強くなる」目標に動き始めたのです。

2. 「立ちほだかる壁がない」という壁

世界ランク一位に躍り出た国枝選手の前に現れたのが、「立ちほだかる壁がないという壁」でした。最強になると、急にテニスがつまらなくなってしまったのです。もんもんとした数か月…。突破口はとつぜん開きました。

「戦っているのは対戦相手ではなく、自分だ。自分はまだまだ未熟だ。」と。

吉舎校区では、昨年度より道徳教育の改善・充実をはかる研修指定を受け、小・中合同で道徳科の授業づくりに取り組んでいます。今年度は、吉舎小学校の小原智穂先生が校区内の全学級の道徳に入り、担任の先生と一緒に授業を展開しています。生徒たちは、思考と交流を通して『道徳ノート（大学ノート）』に自分や仲間の考えをメモしながら、生き方につながる「ものの見方や考え方」を深めています。

国枝さんにとっての弱さとは何だったのか。

◎メンタルな弱さ = “決意”の弱さ

「世界一になりたい」という言葉を指摘される。

→「世界一になる」と決意できていなかった自分がいた。



世界一位になった後の目標は、何になったのか。

- ◎自分自身の壁をこわすこと。
- ◎自分自身と闘って勝つこと
- ◎まだまだ未熟な自分自身を、対戦相手とすること。
- ◎自分の未熟さを、もっと鍛えていくこと。

自分の弱さを克服するためには、どんなことが大切か。

- ◎自分の弱さから、目をそらさないこと
- ◎自分自身の目標を決めること。
- ◎みんなで助け合うこと。
- ◎身近な人と支え合うこと。



自分との対話が深まります。



落ちついた空気の中、自分と向き合い、ものの見方・考え方を広げる2年生です。